

(ここに Tinker Bell のロゴ画像が入ります)

## 原稿募集について

『Tinker Bell 英語圏児童文学研究』（以下『Tinker Bell』）は年1回発行の学会誌です。編集委員会では会員の皆様からの研究論文の投稿をお待ちしております。

事前登録制をとっておりますので、7月16日0時から7月31日24時までに事務局宛に電子メールで事前登録してくださいませようお願いいたします。お名前、論文の仮題、日本語 200 字程度の論文要旨、既に口頭発表したものか否かをお送りください。なお、英語論文を投稿する場合は、要旨も英語での提出を可とします。その場合、語数は 100 words 程度とします。登録できる論文は一人1本のみです。仮題は投稿時に変更可能です。事前登録が受理された方には、3日以内にその旨を事務局より電子メールで返信いたします。

なお、最初の登録数が少ない場合には英語圏児童文学学会ホームページで二次募集を呼びかけるという二段構えとなりますので、二次募集の有無についてはホームページをご覧ください。事務局にお問い合わせください。

応募論文の原稿提出締切は 2024 年 9 月 30 日です（当日消印有効）。原稿は、事務局宛に書留郵便や宅配便など、発送記録が残る方法でお送りください。

『Tinker Bell』は全体の書式を統一して編集しておりますので、投稿に際しては以下の規定・書式上の注意をお守りください。

お問合せは、すべて事務局までお願いいたします。

### 《投稿規定》

1. 投稿者は本学会員であること。なお、事前登録締切り日までに学会費をすべて納入していること。
2. 投稿論文は言語を問わず未発表のものであること。ただし、既に口頭で発表し、事前登録時にその旨明記しているものは審査の対象とする。投稿期日以降に口頭発表を予定しているものは審査の対象外とする。発表済論文の翻訳の投稿についてはこれを認めない。博士論文を含め、ネット公開済みの論文は発表済みとみなす。<sup>※1</sup>
3. 原稿の内容は、英語で書かれた児童文学に関する研究とする。

4. 原稿は横書きで、英文タイトルを添える。長さは、註と引用文献リストを含め、『Tinker Bell』書式（和文で1ページ35字×31行、英文で70ストロークス×31行）で15ページ（和文16,275字）以内を厳守。なお、英語論文の字体はCenturyとし、ストロークス数にはスペースを含む。図版を用いる場合は、原稿とは別に、『Tinker Bell』2ページ以内とする。カラー図版の場合、費用（実費）は執筆者の自己負担とする。図版の著作権に関する事項はあらかじめ執筆者の責任において処理しておくこと。A4判の用紙にプリントアウトした原稿を5部送付する。<sup>\*2</sup>
5. 書式は後述の《書式上の注意》を参照し、そこに書かれていない内容については『MLAハンドブック』第8版（秀和システム）を参照する。註、引用文献リストは論文末に一括する。
6. 英語論文は必ずネイティヴチェックを受けてから提出する。
7. 応募原稿には、投稿者を特定できる情報は入れないこと（投稿者の氏名・謝辞・口頭発表情報等。自著に言及する際にも「拙論」などの著者を特定する表現は使用しない）。採用が決まった段階で氏名等を入れること。
8. 採用後、論文と英文要旨（量は1ページ以内、ネイティヴチェックを終えたもの）のデータを提出する。論文と英文要旨は1つのデータファイルにすること。
9. 採用した原稿の著者校正は初校のみとする。応募時の原稿を完全原稿として扱うので、校正時の訂正は誤植あるいは事実関係の誤りのみに限り、内容に関しては一切認めない。原稿の最終的な文責はすべて執筆者自身が負うものとする。なお、応募時の原稿の引用に誤りがないうよう、特に注意すること。
10. 掲載論文の抜き刷りは有料。希望者へは掲載決定後、初校校正の段階で連絡する。
11. 原稿の採否等については『Tinker Bell』編集委員会、および編集委員会が依頼した査読者がこれにあたる。
12. 論文として掲載する水準には達していないものの、以下に挙げるような観点から公開に一定の意義が認められると編集委員会が判断した場合は、「研究ノート」として採用する。
  - ①研究の前提となる情報や事実の整理が行われている
  - ②史・資料や研究方法についての整理・紹介が行われている

③萌芽的あるいは挑戦的な取り組みの経過報告がなされている

なお、「研究ノート」自体の募集は行っていない。

- ※1 投稿に関する注意事項：投稿規定 2（投稿論文は未発表のものであること）は、投稿の時点でその論文と同一、もしくは酷似した内容の研究発表を行う予定がないという条件を含む。したがって、もし投稿論文が『Tinker Bell』の投稿された号に掲載される以前に、それと同一、もしくは酷似した内容の研究発表を予定している場合は、投稿は認められない。

なお、「同一、もしくは酷似した内容の研究発表」とは、投稿論文と同一の作品を、同一もしくは酷似したテーマやアプローチで論じていると判断されるものを意味する。

- ※2 使用するソフトウェアの書式設定によっては、レイアウトで設定した書式と、実際に 1 行あたりに印字された文字数とが異なることがある。実際に原稿を印字し、所定の文字数を超えていないか確認すること。

#### 《書式上の注意》

原則として Word（97-2004 またはそれ以降）で作成すること。

『Tinker Bell』 編集委員会

- 1 . 論文の構成は本文の後に「註」と「引用文献」のリストをつける。査読を通過した論文は、採用通知後に論文末尾に英文要旨を加える。
- 2 . 本文 1 ページ目は、タイトルと氏名のスペースを 8 行分とする。この分も文字数に入れるので、1 ページ目に入る本文は 23 行となる。氏名は採用後記入。
- 3 . 本文中の章の数字は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとし、ピリオドをつけない。章タイトルは行の中央に置く。「はじめに」「おわりに」「註」「引用文献」などの見出しも同じく行の中央。
- 4 . 英単語、欧文系統の記号、および 2 桁以上の算用数字は、半角で入力する（1 桁の場合は全角）。

例) 1960 年 (○) , 1 9 6 0 年 (×)

ただし、ひとまとまりの年月日や日時および引用ページ番号は、1 桁の数

字も半角で入力する。

例) 2008年3月25日3時50分, 2 Dec. 2001, (Pearce 9-10)

5. 英文の場合, 文と文との間は, 半角スペースひとつとする。文の終わりのピリオドの後に, 半角ふたつ分のスペースを空けない。
6. 省略記号は, 和文の場合は「……」というように, 「…」(3点リーダー, 全角)を重ねる。英文の場合は, 後述の13.3)を参照。
7. 「—」(ダッシュ)は全角のダッシュを2字分打ち(「——」), ハイフン(半角)や長音記号と区別できるようにする。
8. 本文中の註番号は1, 2, 3を用い, ( )や「註」などはつけない。文末に註番号を記す場合は句読点の後に入れる。
9. 末尾がsで終わる単数固有名詞の所有格はアポストロフィの直後にsを付す方式(例: Knowles's)と, 末尾にアポストロフィを付す方式(例: Knowles')のどちらも可だが, 同一論文内での表記には一貫性を持たせること。
10. 和文論文の本文中における外国の固有名詞の表記は執筆者が任意に以下のいずれかで統一する。
  - ア) すべて外国語表記する。
  - イ) すべてカタカナ表記する。
  - ウ) 初出時のみカタカナ表記+直後の( )内に外国語表記し(ただし世間一般に知られていると考えられるものは除く), 以降はすべてカタカナ表記する。

例) ルイス・キャロル (Lewis Carroll) という筆名はクライストチャーチ (Christ Church) の講師としての体面を保つための仮面だった。キャロルはこのようにしてイギリスの読者に……
11. 論文本文における語句の強調は, 和文の場合は傍点で, 英文の場合はイタリック体で示す。
12. 特にインデントをしないで和文中に短い英文を引用する場合は, 当面, 以下のように統一する。
  - 1) 一つの英文内の一部を和文中に引用する場合, 引用の最後にピリオドやコンマをつけない。

例) これらがしばしば “a mere digression” (Man 183) と考えられたためだ。

2) 英文を1文以上和文中に引用する場合はピリオドも含め引用符で囲む。  
例) この話についてもセンダックは “I believe this true. (ピリオド)”  
(365) と語っている。

3) 英文を和文の中に組み込まず、独立させて引用する場合は、引用符の外にページを( )で示し、そのあとにピリオドをつける。文頭は大文字にする。

例) 主人公はこう語る。“[W]e are all alone (ピリオドなし)” (258). (ピリオド)

4) 引用文中の強調符号の扱いについては下記の通りとする。

ア) 文献から直接引用した文章中に使用されている強調符号(傍点、下線、イタリック、太字など)は、和文・英文を問わず原則的に引用元の通りに表記する。

イ) 引用文中の語句に論文筆者自身が強調符号を付すさいには、引用が和文であれば傍点を、英文であればイタリックを使用し、引用末尾に( )で(強調引用者)/*(emphasis added)*と記し、その後に出典を( )で示す。ただし引用元に傍点やイタリックがある場合は、論文筆者自身による強調は下線で示し、引用末尾に( )で(下線引用者)/*(underline(s) added)*と記し、その後に( )で示す。

5) 引用の筆者訳における固有名詞の表記法は10.に準じる。

13. 以下、間違えやすい点に関しては『MLAハンドブック』第8版(秀和システム)を参照した書式をあげておく。(一部に日本の慣習に基づいた『Tinker Bell』様式を使用している箇所がある。)

1) 論文本文に出典の記述がある場合、出典は引用符のあとにページ番号を( )で記す。複数ページにまたがる語句や文を引用するさいは、起点ページ番号と終点ページ番号をハイフンで結んで記す。引用終点ページ番号が2桁以上の数字の場合は、3桁目以上の重複する数字を省略する。

例) 1356-58 (○), 1356-1358 (×) / 43-44 (○), 43-4 (×)

これらが “a mere digression” (183) と考えられたためだ。

これが彼のいう “the most horrible experience” (125-26) だった。

2) 長い文(論文中で5行以上)を引用する場合は引用の前後を1行ずつ

あけ、引用文は全角 2 スペース分インデントする。複数の長い引用を 1 か所にまとめて記載する場合は、引用と引用の間に 1 行分空け、そこに和文の場合は「……」というように、「…」（3 点リーダ、全角）を重ね、英文の場合は「.□.□.□.」のように、ピリオドと半角スペースを交互に入れる（ピリオドは合計 4 つ）。出典は（ ）内にページ番号を記す。複数ページにまたがる文を引用するさいは、起点ページ番号と終点ページ番号をハイフンで結んで記す。引用終点ページ番号が 2 桁以上の数字の場合は、3 桁目以上の重複する数字を省略する。

ア) 論文本文に出典の記述のない場合は著者の姓とページ番号を記す。ページの“p”をつけない。間にコンマをつけず、半角 1 スペースあける。

例) 出典の示し方— (Jung 23) (○), (Jung, 23) / (Jung p 23) (×)

イ) 論文本文に出典の記述のない同一著者の複数の著書から引用する場合は、文献名とページ番号を記す。

例) (*The Silmarillion* 166-67) (*The Hobbit* 141)

(『銀河鉄道之夜』 37) (『注文の多い料理店』 83-84)

・和文献名の後にはスペースをあけない。

ウ) 論文本文に著者名と著書名の記述のない同一著者の複数の著書から引用する場合は、著者の姓、文献名、ページ番号を記す。

例) (Tolkien, *The Silmarillion* 166-67) (Tolkien, *The Hobbit* 141)

(宮沢『銀河鉄道之夜』 37) (宮沢『注文の多い料理店』 83-84)

・英文献は著者の姓の後にコンマと半角 1 スペースをあけ、文献名の後に半角 1 スペースあける。

・和文献は著者の姓と文献名とページ番号の間にスペースをあけない。

3) 英文で、1 文の途中を省く場合はピリオドを 3 つ置き、間に半角スペースを入れる。

例) 〈原文〉 Medical thinking, trapped in the theory of astral influences, stressed air as the communicator of disease.

〈省略〉 Medical thinking□.□.□.□ stressed air as the communicator of disease.

省略符号が文の終わりにくる時は、原文の終止符のあとに半角スペースとピリオドを交互に3つ（ピリオドは合計で4つ）入れる。

例) “Medical thinking, trapped in the theory of astral influences, stressed air as the communicator of disease.□.□.□.”

#### 4) 引用文献リストの示し方

ア) 基本的見出し：必要な情報は、作者名、書物の表題、出版情報。ただし、出版情報には出版地情報（出版社の所在都市）は記入しない。

例) Townsend, Robert M. *The Medieval Village*. Princeton: Princeton UP, 1993.

・著者名は「姓, (コンマ) 名前. (ピリオド)」。

・書名はイタリック体にし、あとにピリオドをつける。

・出版情報は「出版社名, (コンマ) 発行年. (ピリオド)」の順とする。

イ) 編纂もの：見出しを編者名で始め「名前, (コンマ) editor. (ピリオド)」。

例) McRae, Murdo William, editor. *The Literature of Science: Perspectives on Popular Science Writing*. U of Georgia P, 1993.

Nichols, Fred J., editor and translator. *An Anthology of Neo-Latin Poetry*. Yale UP, 1979.

ウ) 共同執筆の書物：最初の著者名だけは姓を先にする。「姓, 名, (コンマ) and 他の著者名. (ピリオド)」の順。他の著者名は「名姓」。

例) Jakobson, Roman, and Linda R. Waugh. *The Sound Shape of Language*. Johns Hopkins UP, 1989.

エ) アンソロジーの中の作品：必要な情報は、著者名、作品名、書名、編者名（edited by と付記する）、出版情報、引用した作品全体のページ番号（前に p.をつける）、またはページの範囲（前に pp.をつける）。

例) Calvino, Italo. “Cybernetics and Ghosts.” *The Uses of Literature: Essays*, edited by Patrick Creagh. Harcourt,

1982. pp. 3-27.

Franklin, Benjamin. "Emigration to America." 1782. *The Faber Book of America*, edited by Christopher Ricks and William L. Vance. Faber, 1992. pp. 24-26.

- ・作品名はふつうピリオドも含め引用符で囲む。
- ・書名のあとに「, (コンマ) edited by 編者名. (ピリオド) 出版情報. (ピリオド) 引用した作品全体のページ番号. (ピリオド)」。
- ・アンソロジーに収められている作品は、アンソロジーよりも前に出版されたものが多いので、作品の最初の発行年を示したい場合は、作品の表題のあとに記してピリオドをつける。

オ) 定期刊行物: 必要な情報は、筆者名、論文の表題、出版情報。

例) Baron, Naomi S. "Redefining Reading: The Impact of Digital Communication Media." *PMLA*, vol. 128, no. 1, Jan. 2013, pp. 193-200.

Smith, Johanna M. "Constructing the Nation: Eighteenth-Century Geographies for Children." *Mosaic*, vol. 34, no. 2, 2001, pp. 133-48.

- ・論文の表題はピリオドも含め引用符で囲む。
- ・短編や詩など引用符で囲まれる表題が論文の表題の中に現われるときは、その短編や詩の表題はシングルの引用符で囲む。
- ・論文の表題のあとに、雑誌名 (イタリック体), 巻番号 (vol. の後に巻号, もし号数があるなら, no. の後に号数), (あれば) 発行月の略号と発行年, ページ番号 (用いた論文全体のページを示す), ピリオドの順とする。
- ・なお, 雑誌のページが通巻になっていない場合には, 巻番号のすぐあとにピリオドをつけて, 号番号 (number やその略号 no. は不要) を続ける。

カ) 電子出版物その他で上に該当しない場合に関しては、『MLA ハンドブック』(第8版)の Part 1「引用文献リスト」及び Part 2「MLA 方式の細則」を参照のこと。

例) 阿部公彦「善意と文学——語りの「丁寧」をめぐって 第 22



回（最終回）ウォレス・スティーヴンズの無愛想（下）」『Web  
英語青年』 vol. 3, 2013, pp. 2-19. [www.kenkyusha.co.jp/  
uploads/03\\_webeigo/webeigo/prt/12/webseinen130301.pdf](http://www.kenkyusha.co.jp/uploads/03_webeigo/webeigo/prt/12/webseinen130301.pdf).  
Accessed 20 Mar. 2013.

キ) 和文献から引用する場合は原則的に MLA 書式を参照する。アンソロジーや定期刊行物から引用するさいは、引用する作品や論文全体のページ番号を出典の末尾に示す。引用する著作物の終点ページ番号が2桁以上の場合は、3桁目以上の重複する数字を省略する。

・ 単行本著書

久保正彰『Ovidiana——ギリシア・ローマ神話の周辺』青土社, 1978.  
新倉俊一「モロアの森の恋人たち」『ヨーロッパ中世人の世界』筑摩書房, 1983. pp. 176-210.

・ 単行本翻訳書

ボウラー, ティム『川の少年』入江真佐子訳, 早川書房, 2003.

・ 雑誌論文（和文献は誌名直後の（ ）に発行所を記す）

松田隆美「チョーサーの「メリベウスの話」と prudentia」『藝文研究』（慶應義塾大学藝文学会） vol. 58, 1990, pp. 243-56.

ク) 本誌を引用文献として示す場合は以下の表記とする。

・ 英文表記: *Tinker Bell: Studies in Children's Literature in English*

例) Tanimoto, Seigou. "New Trends in English Poetry for Children." *Tinker Bell: Studies in Children's Literature in English*, vol. 40, 1994, pp. 3-16.

・ 和文表記: 『Tinker Bell 英語圏児童文学研究』

例) 谷本誠剛「イギリス児童詩の新しい波」『Tinker Bell 英語圏児童文学研究』（日本イギリス児童文学会） vol. 40, 1994, pp. 3-16.

ケ) 引用文献は、まず欧文献を著者の姓のアルファベット順で、次いで和文献を著者の姓の五十音順で記す。

2024年1月